



<校訓>

敬愛 自主 剛健

未来橋

令和7年9月

高浜町立高浜中学校

Takahama Junior High School



よりよい学校生活へ SHINKA

今夏の参議院選挙では、新たな政党の台頭が話題となりました。「自分たちの声が政治に届いていない」という思いが、多くの人々の支持につながったのではないかと報じられています。

同じように、本校の生徒会でも、「生徒の声を生かしたい」という思いから「生徒心得の見直し」に取り組む動きがありました。特に要望の多かった「靴下の色」に関する規定について、執行部を中心に改革が進められました。

生徒集会では、執行部の生徒から「9月から新しいルールをスタートします。各クラスで生徒心得の重要性を再認識し、遵守宣言を行い、TPO を考えながら秩序ある過ごしやすい学校を一緒に創っていきましょう」と呼びかけがあり、大きな拍手が送られました。



前期の生徒会執行部は「生徒心得の改革」を公約に掲げ、改革実行委員会を立ち上げました。全校生徒や保護者、近隣校への聴き取りやアンケート、各学級での話し合い、調査結果の集約と改革案の策定、生徒集会での提案と採決、そして校長の承認まで、段階を踏みながら着実に行動を重ねてきました。その過程で、生徒たちは、多様な意見に耳を傾け、多面的な見方や合意形成の難しさや大切さに気づき、考えを深めていったようです。

かつては、髪型や服装に至るまで細かく規定された校則があり、国連の「子どもの権利条約」に照らしても、理不尽・不合理な「ブラック校則」として問題視されることがありました。

社会の変化に伴い、校則は、学校から一方的に押しつけるものではなく、生徒自身が話し合い、納得して守るものへと進化することが求められています。本校でもその考えをもとに「生徒心得」として引き継いできましたが、長年にわたり見直しを求める声がありながらも、なかなか実現には至っていませんでした。



↑ 生徒会テーマロゴ



生徒心得 SHINKA の真価

今回の改革は、生徒会が勇気をもって声をあげ、行動を起こしたからこそ実現したものです。この取り組みは、後輩たちにとって良いお手本となり、新たな伝統として受け継がれていくことでしょう。

生徒たちは、将来、社会のルールの中で多様な立場の人々と共に生きていくことになります。自由な社会であるからこそ、意見の違いやトラブルを乗り越え、より多くの人が納得できるルールかどうかを考えていくことが大切です。

国際化・情報化が進み、多様性が尊重される現代において、どのような社会のマナーやルールを身につけていくべきか。これは、保護者や教職員も共に考えていきたい大切なテーマです。

生徒一人ひとりが自分に自信をもち、仲間を大切にしながら、未来の社会をつくる力を育てていけるように、これからも生徒会の取り組みを応援しつつ、自他を尊重できる学校づくりを進めてまいります。

※裏面に「靴下の色」に関連して、中学生の気づきを綴った作文を掲載しています。



「声を聞いて」 大分県 宇佐中学校3年 生徒作文



白い靴下ばかり履いているいとこ。19歳の時に事故で脊髄を損傷してから腰から下が動かなくなりました。今は車椅子を利用しています。常に自分の車椅子を持って移動しているいとこ。

ある日、一緒に買い物に行くことになり、車に車椅子を入れるスペースがなかったのでデパートで車椅子を貸し出してもらおうと話をしていると、「それは無理だ」と言い出しました。いとこは足の感覚がないので車椅子のペダルから足が落ちててもそれに気づかずに行き続けてしまいます。そうすると足は地面に擦れたまま走り続けることになるので、気づいた時には血だらけになっている、ひどい時には足の指を骨折するかもしれないからとのことでした。

いとこの車椅子にはベルトが付いているので固定できるが、貸出用の車椅子にはベルトがないものがほとんどです。私たちは気づきませんでした。車椅子はどれも同じだと思いこんでいたのです。

そして、もう一つ、いつも白い靴下を履いている理由を聞いてはっとしました。ケガをしても痛みがないからケガをした事自体にすら気がつかない。でも白い靴下なら血が出ていたら一目で分かるというのです。実際に一度、自宅でドアに足を挟んだ事に気づかず爪が剥がれている状態があったそうです。たまたま白い靴下を履いていたので早めに気づけたけど、白でなかったらわからなかっただろうと言っていました。それからずっと白い靴下を履いているそうです。私たちの普段の生活では気づかない事が実際にはたくさんあることを知りました。(以下省略)

職場体験を通して SHINKA



8月末、2年生は町内31カ所の事業所や店舗のご協力のもと、職場体験学習を行いました。生徒たちは、職業への理解を深めるだけでなく、社会の中で自分たちが果たす役割についても考える貴重な機会となりました。事前の準備から当日の対応まで、懇切丁寧にご指導いただきました各事業所・店舗の皆さまに、心より感謝申し上げます。

夏休み中、主体的に学び、様々な場でSHINKA



吹奏楽部定期演奏会



駅伝練習



探究学習(高浜漁協)



少年の主張大会福井新聞社賞



サマースクール



スポごみ県大会準優勝



ヒューマンサークルin神戸



盆踊り大会ボランティア